



新庁舎建設だより 8

南九州市新庁舎建設工事進捗状況

安全祈願祭を終え、本格的に新庁舎建設工事が始まりました。現在は、建物の基礎部分の工事を行っています。



重機搬入前の様子(10月中旬ごろ)



杭打ち作業の様子(10月下旬ごろ)

南九州市新庁舎情報 # 2 ユニバーサルデザインについて

新庁舎建設事業では、基本理念・方針の1つ「すべての人にやさしい庁舎」に向けた取り組みとして、「ユニバーサルデザイン」を取り入れています。今回の新庁舎建設だよりでは、「ユニバーサルデザイン」についてお伝えします。

①ユニバーサルデザインとは？

【定義】 特別な製品や調整なしで、最大限可能な限り、すべての人々に利用しやすい製品、サービス、環境のデザイン

資料引用元 内閣府認証特定非営利活動法人 実利用者研究機構 JITUKEN (ジツケン)

例えば、、、



令和6年7月3日に発行された、日本の新札にもユニバーサルデザインが取り入れられています。新しい紙幣には、視覚障がい者のために触覚で識別できる11本の斜線マークが施されています。また、額面数字が大きく印刷されており、視力が弱い人にも見やすいデザインです。ホログラム、すき入れの形や配置が券種ごとに異なるため、識別しやすくなっています。

②ユニバーサルデザイン (UD) って、なに？

子供もお年寄りも、女性も、男性も、障がいのある人もない人も・・・
想像できないほど、さまざまな身体能力を持つ人々がいっしょに暮らし、同じモノを利用しています。いろいろな立場の人がいっしょに、より便利に使えるように、製品や建物・空間をデザインしていこう！という「考え方」と、それをベースにつくられたモノや環境、サービスを「ユニバーサルデザイン」と呼びます。

③バリアフリーとは何が違うの？

バリアフリーは、障害によりもたらされるバリア（障壁）に対処するという考え方に対して、ユニバーサルデザインはあらかじめ、障がいの有無、年齢、性別、人種等にかかわらず多様な人が利用しやすいよう都市や生活環境をデザインする考え方です。
広い視点でみると、バリアフリーはユニバーサルデザインの一部と言えます。

ユニバーサルデザインの歴史

ユニバーサルデザインという考え方は、1980年代にアメリカで建築についての研究をしていたロナルド・メイス教授によって考案され、広められました。

ロナルド・メイス教授は車いすで生活しており、当時使われていたバリアフリーという言葉に違和感を覚えたことで、ユニバーサルデザインという考えを提唱しました。バリアフリーは障がい者を特別視するという考え方であり、メイス教授はその考え方に疑問を持ちました。障がい者を特別視することによって、健常者が無意識の内に同情や哀れみを持つことにつながる恐れがあります。同時に、障がいを持つ方に限定するのではなく、すべての方が恩恵を受けられる方が優れているという考えです。

そうして完成形から障害となるものを取り除くというバリアフリーよりも、はじめから誰もが使いやすいようにデザインした方がよいという考えによって、ユニバーサルデザインが生まれました。そこから世界へとユニバーサルデザインの思想が広がっていき、日本にもその考えが浸透してきています。

④ユニバーサルデザイン 7 原則について

ユニバーサルデザインには、7つの原則があり、それぞれにガイドラインが設けられています。

公平性	だれもが公平に利用できること 事例：自動ドア、ノンステップバス
自由度	使う上で自由度が高いこと 事例：階段、エレベーター・エスカレーターを選択できる。
分かりやすさ	使い方が簡単ですぐ分かること 事例：ワンタッチ開閉式の折りたたみ傘
安全性	必要な情報がすぐに理解できること 事例：ピクトグラム、信号機
単純性	うっかりミスや危険につながらないデザインであること 事例：動作中にフタを空けると止まる洗濯機
体への負担の少なさ	無理な姿勢や強い力が必要ないこと 事例：商品選択ボタンが低い位置にもある自動販売機
スペースの確保	アクセスしやすいスペースと大きさを確保すること 事例：幅の広い自動改札、多目的トイレ

⑤南九州市新庁舎での取り組み内容について

新庁舎では、訪れるすべての人が使いやすい庁舎を目指し様々な取組を計画しています。



移動空間への配慮

十分な広さの通路幅の確保、バリアフリー、思いやり駐車場、車いす利用者対応のエレベーターの設置など、誰もが円滑に移動しやすい計画とします。



安心して利用できるトイレ

高齢者やからだの不自由な方が安心して利用できるように、多目的トイレを各階に設置します。一般男女トイレには、乳幼児対応設備（便器、ベビーチェア）を設置します。



子育て中の親子への配慮

乳幼児連れの来庁者も利用しやすいよう、キッズスペースや授乳室、おむつ交換スペース等を整備します。

南九州市新庁舎は、「すべての人にやさしい庁舎」を目指します！